

# アミーゴ会だより

2023年4月  
通巻第54号  
季刊 2023-II

[www.mex-jpn-amigo.org](http://www.mex-jpn-amigo.org)



発行人：河嶋正之  
編集人：河嶋正之  
事務局：吉野 隆

メキシコへの誘い：歩行記 6

## ぶらりメキシコ人旅 —イダルゴ州の奥座敷：「良く肥えた土地」アクトパン—

メキシコ・日本アミーゴ会 会員  
写真家・ルポライター 阿部修二

### はじめに

今回から3回ほどイダルゴ州の奥座敷と呼ばれる、オトミ族の故郷の町と村を紹介しようと思う。まずは、オトミ族の言葉で「良く肥えた土地」を意味するアクトパンの町を…。たぶん読者にはあまりなじみのない町だと思うが、私のメキシコひとり旅の中で記憶に残る町の一つなので紹介したい。

メキシコ市から工業都市パチューカに向かい、そこでバスを乗り換えてさらに北上すること30kmにある人口6万弱のアクトパンはその名の由来通り、東のロス・フレイレス（修道士）山脈の麓に広がる耕作地帯に位置している。

このアクトパンにスペイン人征服者が姿を現したのはかなり早い時期のことだったが、アウグスティヌス会の修道士が布教のためにここに入植したのは、それからかなり経ってからのことだった。この町の中心部に建設された巨大な修道院・教会の建物は1548年に完成しているが、メキシコ各地にこうした修道院・教会が設置された、まさに教会建築ラッシュ時代のものだ。この修道院・教会はこの地に最初に着任したアンドレ・デ・マタ修道士の「奇跡の修道院・教会」と呼ばれている。それがどうして奇跡なのかを示す何の文章も残されていないのだが、そのレプリカのような修道院・教会が、同じオトミ族の近郊の町イスミキルパンに残されていて、これもまたマタ神父によって建設が指導されたものだったために、そう呼ばれたのだろう。このあたりでの彼の存在の大きさがうかがえる。

### アクトパンの要塞型修道院・教会

概してメキシコ市を取り囲む周辺部で布教活動をしていたアウグスティヌス会の修道院・教会に、胸壁や銃眼を持った要塞型の建物が多い。それはテノチティラン、つまりメキシコ市が征服されてもこの時代、地方都市では先住民の反抗、蜂起が頻繁に起きていたため、スペイン人征服者が過剰防衛とも思える要塞型教会を造る必要があったからだった。



このアクトパンの修道院・教会は資料によると南北に285m、東西に183mという広い敷地を、町の中心に持っていた。しかし、現在では南側の3分の1の土地はバスケットコートや学校などの公共施設、それから商店や民家になっている。さらに修道院・教会の敷地もほとんど身売りされ、ソカロ（中央広場）に面した以前の修道院の前庭は商店街になっている。さらに教会前のアプローチは現在、無機質なコンクリートで舗装され、新しい樹木が植えられて公園になり、若者たちの溜まり場となっていて、昔を偲ぶものは皆無だ。

←ソカロと修道院・教会

### ＝ 目次 ＝

- 1.メキシコへの誘い：「ぶらりメキシコ人 6-イダルゴ州の奥座敷「良く肥えた土地」アクトパン」 阿部修二 ...1
- 2.メキシコ報告：「AMLO 大統領の高支持率：57%と高位安定・2024年選挙に向け MORENA 圧倒」 編集部 ...5
- 3.会員の活動報告：「4月9日の黒沼ユリ子最終引退公演の報告」 吉野 隆 ...6
- 5.お知らせ：「直行便毎日運行：AM再開・ANA継続」/「JNTO設置」 ...4
- 特別展「古代メキシコ展：マヤ、アステカ、テオティワカン」/「第2回オラ!タコスパーティ」/あとがき ...7



教会正面のかつて前庭の中心と思われる地点にヤットコ、釘、金槌、オンドリ、梯子などが刻まれたメキシコ特有の十字架「テキキの十字架」が奉られている。この十字架は、キリストが人々の苦難を引き受けて磔にされ昇天したことを先住民に絵解きするための装置として使われ、植民地時代初期の修道院・教会の教会堂の真正面に設置されるのが常であった。しかし、ここアクトパンのそれは時代の風格もない模造の十字架で、数年前には土台しかなかったことを私は記憶している。



テキキの十字架レプリカ

この位置から教会を眺めれば、教会のすぐ南には教会本体の二倍はあろうかというような高い鐘楼が目に見え込んでくる。アフリカ地中海岸の教会の雰囲気を持つこの鐘楼の上には、要塞型教会の特徴である胸壁が見えている。その第一印象もさることながら、ここアクトパンの特徴は北に配置されたサッカー場のような無機質な広場と開放型礼拝堂にある。



開放型礼拝堂(左)と教会(右)

普通、メキシコの開放型礼拝堂は教会の玄関面にそろえて建てられ、信者席は木陰のある前庭に集められるのが常であるが、この礼拝堂は教会最奥にある祭壇の位置に合わせるようにして造られている特異なレイアウトである。要石にアウグスティヌス会の紋章が彫られている以外は、レリーフや彫刻のまったく見られない近代建築のような単純な筒型ドームで、幅が15m、高さ12m、奥行き15m程の大規模なものだ。



飾りのない開放型礼拝堂

真正面にあったと思われる祭壇は今は見られないが、常に外気にさらされている開放型礼拝堂にもかかわらず、内壁には今もかなりハッキリとフレスコ画が残され

ている。正面には、旧約聖書「創世記」のアダムとイブの物語、大洪水とノアの箱舟などが描かれている。

この礼拝堂の左右の壁にも日本のお寺に見られるおどろおどろしい地獄や天国での死後の生活の絵が描かれているが、筆の運びから下書きを見て植民地時代初期に生きた先住民が描いたものであることは間違いない。



開放型礼拝堂祭壇部壁画(左側)



開放型礼拝堂祭壇部壁画(右側)

前述したが開放型礼拝堂の前の広場、つまり教会の信者席に当たる部分はただの広いコンクリート敷きになっている。太陽を遮る物といえば教会の建物以外になく、どこか殺伐としたものを感じるが、多くの先住民を集めてミサを執り行うには余裕のある広場である。でも、マイクもスピーカーもない時代、修道士の声が後ろまで届いたのだろうか。開放型礼拝堂に力を入れることがなかったアウグスティヌス会が、これだけ大規模な開放型礼拝堂を用意したという理由は、それに見合う沢山のアクトパンの先住民がここに住んでいた証であろう。

### 洗礼室・回廊・食堂

さて、教会の中に入ってみよう。内部はかなり改修されたもようで、後部、2階聖歌隊席の両側に16世紀のものと思われる壁画が残されているだけで壁は白い。しかし、教会堂の控え室に入ると、二つのアーチの向こうに、大きな聖水盤のある洗礼室がある。その天井の装飾



洗礼室の天上装飾



リブ(ドームを支える力学的な構造物を装飾として利用した骨組み)の間には、花や植物のモチーフがエメラルドグリーンや赤を用いて繊細なタッチで描かれている。

ちょうど男児の洗礼に訪れた家族の写真を撮らせてもらったのだが、それが縁でお祝いの昼食に招待されたのも、今ではいい思い出になっている。



洗礼の母子

さて、現在美術館になっている修道院の門衛所から中に入ると、がっしりした四角い柱に支えられたルネッサンス風アーチの回廊に出る。回廊は二階建てになっていて、かなりの数の独居房が中庭を取り巻いている。アクトパンで見逃してならないのは修道院に残されている沢山のフレスコ画や油絵である。なかでも上下の回廊をつなぐ階段部の白壁にはほぼモノトーンで描かれたアウグスティヌス会の高德の修道士たちの肖像画は、見応え



階段部にある修道士の壁画

のある作品である。階段の吹き抜けを三段に分け、手紙を書く修道士や読書する修道士、学問に身を入れる修道士、祈りを捧げる修道士などが描かれている。それはまるで三階建て回廊のアーチの下に椅子を持ち出して腰掛け、徳を磨く修道士たちを、回廊の中心にある庭から眺めているように描かれている。



修道院回廊の壁画

視線は決してこちらを見ていない。それがかえって修道士たちの真摯な生活態度を強調しているように見える。このフレスコ画は1579年から81年までここに滞在したアセバドという神父によるものと言われている。こうしたイスにかけた修道士達の肖像画は、アウグスティヌス会の教会や修道院に特有な意匠である。

修道院の建物の南端には台所と食堂がある。南の自給用の畑に面したこの食堂の筒型ドーム天井は修道士達にとって至福の空間であったと想像する。天井一杯にお碗を埋め込んだような凹みがあり、そこには緑の葉に縁取られた葵のような花が描かれている。隙間を許さない天井の装飾は重圧感を覚えるものだが、モチーフが花のせいかそうしたものはない。南の窓から射し込む光がその凹みに陰影をつくる。修道士たちは毎朝、スープに映る花をすくって口に運び、故郷スペインから遠く離れた未知のこの大陸で孤独と戦っていたのかもしれない。



修道院食堂の天井装飾

16世紀メキシコの旧修道院・教会に残されている彫刻や油絵は、残念ながら貧困と言わざるを得ない。しかし、ここアクトパンの場合、教会や修道院にあったと思われる天使像や聖人像が幾つか残され展示されている。また、かなり沢山の油絵も残されていて、修道院の遺跡ばかりでなく16世紀、17世紀のメキシコ教会美術にふれる機会を与えている。なかでも金の冠を付け、金の刺繍のガウンをつけたあどけない表情のマリア像や、十字架を持つ憂い顔の美人尼僧像は私の好きな作品である。

誰もいない静かな僧院にたたずんでいると、修道士たちの祈りの毎日が穏やかで心満たされていたものの様に思えてくる。しかし、同時に武器を持つ兵士に身を守られながら宣教していた修道士たちの心の矛盾を、彼らはどのように理解し納得していたのか不思議でならない。



マリア像



修道院の見学を終えて表に出てみると、鼓笛隊の太鼓とラッパの音が耳に飛び込んできた。祭り？の音に吸い寄せられるように行ってみると、それは教会裏の緑の芝生（旧修道院の菜園）のサッカー場からのものだった。折しも、アクトパンのミゲル・イダルゴ中学校の記念祭が繰り広げられようとしていたのだ。国旗入場、国家斉唱、一通りのお偉方の挨拶が済むと、生徒達の出し物が始まった。タンバリンを持った女子生



女学生の演舞



男子学生の仮装行列

徒の演舞、着ぐるみをつけた男子生徒の出し物、赤と白の長いシャツを使ったマスケームが緑の芝生いっばいに展開されていた。私は今はすっかりヨーロッパの文化を受け入れた褐色の若者たちの優美でしなやかな動きに見とれていた。そうしたヨーロッパ的な出し物からメキシコの植民地化に成功したスペインをそこに見た気がしたのだった。



紅白幕のマスケーム

でも、ソカロで出会った若い女性たちの写真を撮らせてもらったとき、そうした感傷は過去のものかもしれないと思った。



ソカロのセニョリータたち

私はメキシコ市トラテロルコ広場でみた石碑に刻まれた「1521年8月13日、英雄クアウテモックが死守していたトラテロルコの地がエルナン・コルテスの手に落ちた。それは勝利でもなく、敗北でもなく、苦痛を伴ったメスティエソの故郷の誕生だった。それが今日のメキシコである」の言葉を思い出していた。

[写真複製不可]  
(連載その6完)

阿部修二会員に「ぶらりメキシコ人旅」と題して、メキシコのあちこちを訪ね歩いたエッセイを連載していただきます。

- 第1回(2022年1月号)：トラスカラ 第2回(同4月号)：ケタロ 第3回(同7月号)：ハルバン&コンカ
- 第4回(同10月号)：ランダ、ティラコ&タンコヨル 第5回(2023年1月号)：シリトラのエドワード・ジェイムスの庭
- 第6回(同4月号)：イダルゴ州の奥座敷「良く肥えた土地」アクトパン

阿部さんは2005年よりアミーゴ会会員。1947年岩手県花巻市生まれ。岩手大学工学部卒及び桑沢デザイン研究所ビジュアル・デザイン科卒。日本写真家協会元会員。メキシコ教会美術に惹かれ1986年より毎年渡墨。2005年以降4冊のメキシコ関係書籍を発行。最新作は『先住民のメキシコ—征服された人々の歴史を訪ねて』(2021年9月刊 明石書店)です。[写真転載不可]<編集部>

**お知らせ**

**アエロヒコ航空(AM)**

**成田～メキシコ市の毎日運行再開**

AMは3月26日、コロナ禍で休止していた直行便の毎日運行を約3年ぶりに再開。日墨修好400周年の2009年初就航。今年は日墨外交関係樹立135周年。使用機材はボーイング787-8型機。メキシコ国内44路線および中南米各国を接続。

運行ダイヤは次の通り：

- \*AM57 東京成田 14:25～メキシコ市 12:10 毎日
- \*AM58 メキシコ市 00:25～東京成田 06:20 +1 毎日

**全日空(ANA)は毎日運行を継続中**

ANAは2017年2月以来の週7便毎日運行を継続中。機材はボーイング787-8型機。

運行ダイヤ：

- \*NH180 東京成田 16:30～メキシコ市 14:15 毎日
- \*NH179 メキシコ市 01:05～東京成田 06:30+1 毎日

**日本政府観光局(JNTO)事務所設置**

JNTOが2021年11月、メキシコ事務所を開設。外国人の訪日旅行プロモーションやマーケティングを担当。

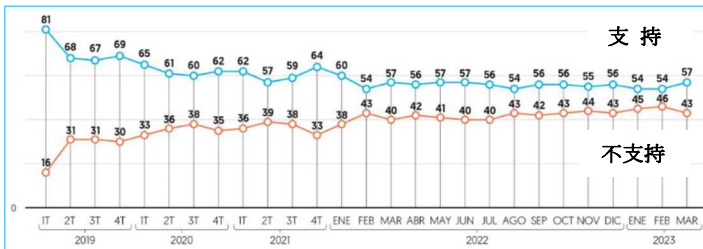
## AMLO大統領の高い支持率続く

メキシコでは2024年6月に大統領選挙が行われる。2023年下期には各党派候補者の選出に向けて駆け引きが強まり、来春にかけてメキシコは「政治の季節」を迎える。本稿ではアンドレス・マヌエル＝ロペス＝オブラドル(AMLO：アムロ)大統領の支持率を「3月調査」(金融専門紙El Financiero紙2023年4月4日付電子版)で、さらに有権者の党派別投票意向を「2月調査」(同紙3月6日付電子版)で瞥見し、2024年選挙の趨勢を考える素材としたい。

### 大統領支持率：57%と高位安定

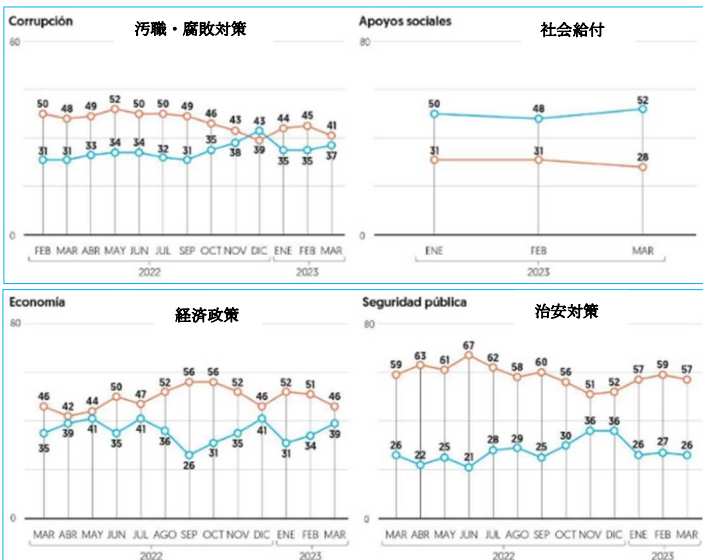
AMLO大統領の支持率は最新の3月調査では57%と2月の54%から3%ポイント上昇し、過半を超える手強い支持率を確保している(図1)。他方、不支持率は43%と前月より3%ポイント下がった。

図1. AMLO大統領の支持率推移(%)



AMLO政権の政策課題別評価をみると、汚職・腐敗対策は良い(=とても良い+良い)が37%、悪い(=とても悪い+悪い)が41%とほぼ拮抗している。社会給付は良いが52%、悪いが26%と依然として高い評価を得ている。経済分野は良いが39%、悪いが46%と現状への不満が読み取れる。治安対策は良いが26%、悪いが57%で、社会の現状への国民の不満が根強い。

図2. 政策課題別評価の推移(%)



他方、チワワ州シウダ・ファレス市にある連邦移民局 INM 施設の火災(3月27日)で被収容者40人が死亡した事故について、AMLO 大統領の対応を56%が良いと評価している。事故責任は39%が火災時に出口を封鎖した移民局が負うべきとするも、事故責任の追及はうやむやになるとの答が51%にのぼる。

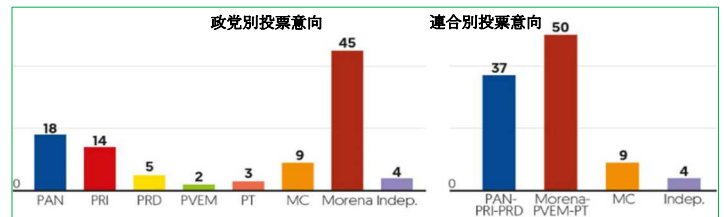
また、タマウリパス州マタモロス市で発生した米国人旅行者4人の拉致・2人の殺人事件(3月7日)に関連して、メキシコの組織犯罪に対処するには、米国との更なる協力強化が必要と考える人が67%いるが、他方、メキシコの主権を守るために米国の介入を否認する人が45%いる。(この項完)

\*URL : [Marzo 'le da empujoncito' a AMLO: Aprobación sube a 57%. según Encuesta EF - El Financiero](https://www.el-financiero.com.mx/encuestas/2023/03/03/encuesta-amlo-57-puntos)

### 2024年選挙に向けて MORENA が圧倒

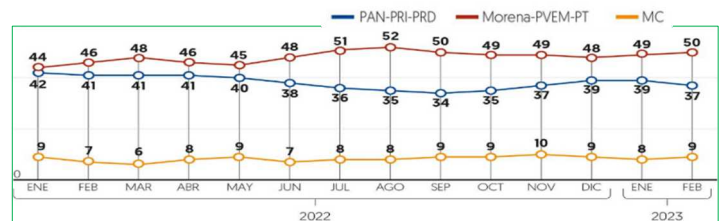
「今日選挙があればどの政党に投票するか」との2月調査には、AMLO 政権与党の MORENA : 国家再生運動 に投票するとの答が45%と他党を圧倒している。また、政党連合別投票意向調査では与党連合(MORENA+PVEM : 緑の環境党+PT : 労働党)に投票する人々が50%と、三大伝統政党からなる野党連合(PAN : 国民行動党+PRI : 制度的革命党+PRD : 民主革命党)の37%を13%ポイント上回っている。その他(MC : 市民運動、諸派 Indep.)は伸び悩んでいる(図1)。

図1. 政党別・連合別投票意向調査(%)



政党連合別の過去1年の支持率推移は与党連合が不断に50%前後を維持しているが、野党連合は30%台後半で推移している(図2)。

図2. 政党連合別投票意向調査の推移(%)



与党連合の中核 MORENA の有力候補者4人の支持率はシェインバウム CDMX 市長28%、エブラルド外相22%、ロペス内相15%、モンレアル委員長9%だ。他方、同党支持者の間では各々43%、36%、31%、24%となっている(図3)。なお、MORENA の党内候補者は今年8月と12月の「世論調査」で選出される。

図3. MORENA の候補者支持率(%)



なお、野党連合を構成する3党は今年1月、メキシコ州とコアウイラ州での6月知事選にはPRIが、来年の大統領選にはPANが統一候補を擁立すると合意した。しかし、野党側の想定候補者の評価・期待値がいずれも低く、全国最多の有権者を擁するメキシコ州知事選挙の趨勢が注目される。野党候補者として現在、PANのテジェス上院議員、クリール下院議長、MCのコロシオMTY市長、PRIのルイス議員、PRDのマンセラ議員などの名前が挙がっている。(この項完)

\*URL : [Morena 'tiene esperanza' rumbo 2024: Aventura a oposición en febrero, según Encuesta EF - El Financiero](https://www.el-financiero.com.mx/encuestas/2023/02/02/morena-45-puntos)



## 4月9日の黒沼ユリ子最終引退公演の報告

アミーゴ会事務局長 吉野 隆

メキシコ駐在時代に、世界的ヴァイオリニストで、世界中での演奏活動の傍ら若手演奏家の育成や、日墨交流の懸け橋としてエネルギーに動いておられた黒沼ユリ子さんの事を知り、ワイフが「メヒコ・リンド」という駐在員夫人たちの親睦会に参加していたことから、メキシコの黒沼さんのお宅での演奏会にもワイフの御供で行きました。その至高の音色の聞き納めというので、はやる心を押さえながら会場の御宿を訪問しました。

### 御宿:日墨交流発祥の地

御宿訪問は初めてだったので、朝7時40分に川崎の自宅を車で出発、御宿には2時間程で到着。まだバイオリンの家(後述)が開館していなかった為、まずは御宿の人気スポット「月の砂漠公園」(童謡「月の砂漠」のモデルとなった海岸にある)を訪問。海はコバルトブルー、空は雲一つない快晴、白砂の海岸には、多数のサーファーがいつ来るともしれぬ高波を待っていました。公園には2頭のラクダに乗った王子と姫と、月が置かれているという、とても名称と理由のわかりやすい公園でした。

その公園から車で数分行ったところには「ドン・ロドリゴ上陸の地」「日・西・墨三国交通発祥記念の碑」



日・西・墨三国交通発祥記念碑



抱擁の像



が小高い丘の頂に在り、そこからドン・ロドリゴの船が漂着した岩和田海岸が一望できます。

難破したサンフランシスコ号は1609年フィリピンからメキシコに向けて航海中に台風に会い9月30日に座礁、乗組員373人中溺死者56人、残る317人は岩和田村民により救出された。この時海女たちは異国の遭難者にもかわからず、素肌で温め蘇生させたという。その後乗組員は時の将軍秀忠に江戸で拝謁、更に駿府にて家康と面会。家康が三浦按針に建造させた新しい船を与えられ、無事メキシコに帰国しました。

### ヴァイオリンの家に集うヴァイオリニストたち

11時開館の時間が迫ったので、街に戻り黒沼ユリ子の「ヴァイオリンの家」を訪問しました。このヴァイオリンの家はその名が示す如く、1000を越すヴァイオリニストたちのコレクションで、黒沼さんの夫であった渡部高揚氏が黒沼さんと出会ってから集めたものと、黒沼さん自身が調達されたコレクションです。もともとメキシコの黒沼さんの自宅を飾っていたものを、帰国されたときに持ち帰り、展示されたものです。

ヴァイオリンの家でお目にかかった黒沼俊子さん(ユリ子さんのお姉さん)の紹介で近くのお寿司屋さんにて新鮮なお寿司を、アミーゴ会幹事で文化事業を担当されている森和重さんと一緒に堪能することが出来ました。

公演拝聴前の腹ごしらえを終えて一路、演奏会場のラピドール御宿へ向かいました。



## 弦楽器の愉しみ:黒沼ユリ子さん引退最終演奏会

すでに引退公演第一部を聴きにいられた方々も集まっておられ入場開始、幾分早い順番で参加登録できたので、前列3列目という一等席を確保でき、ワクワクしながら開演を待ちました。アミーゴ会のメルマガでご案内していたことも在り、第一部は定員100名がすぐ予約でいっぱい打ち止めとなりましたが、演奏を聴きたい方がまだ沢山おられたことから、黒沼ユリ子さんのご厚意で最終引退公演会は急遽第2回公演が追加されました。

黒沼ユリ子さんのご挨拶では、今年84歳となり、ヴァイオリニストとしては身体機能として70代が精一杯です。8年前に上皇様の前で引退しますと明言しながらここまで来てしまったが、体力的にもきつく、今回で本当の最終引退公演としますと説明され、演奏が始まりました。

今回の演奏は「弦楽器の愉しみ」と題して、ヴァイオリン2本、チェロ、ヴィオラの4本編成で、まずはヴァイオリン独奏、次はヴァイオリンとヴィオラの弦楽二重奏、続いてヴァイオリン、ヴィオラ、チェロの三重奏、最後の演奏はヴァイオリン2本、ヴィオラ、チェロの弦楽四重奏で、黒沼ユリさんが大好きなドヴォルジャークの弦楽四重奏第6番へ長調、作品名96「アメリカン」で締めくくられました。

ドヴォルジャークについて、黒沼さんは、日本ではドボルザークと呼ばれているけど、正しい言い方はドヴォルジャークですとの解説もありました。目から鱗でした。

カーテンコールでは、誕生日が4月と5月の聴衆の方向けに、色々な演奏スタイルで「ハッピーバースデー」が贈られ、又、弦楽器4本すべてを使ったピッチカート演奏など、約1時間半にわたり休憩なしで演奏を楽しむことが出来ました。

会場には最終引退公演という事で、メルバ・プリーア駐日メキシコ特命全権大使も来場。最後まで演奏会を楽しまれ、最後には黒沼ユリさんと熱いハグをされたのちに会場を後にされました。アミーゴ会として森和重さん共々プリーア大使に日頃のご支援を謝してご挨拶を行いました。

アミーゴ会としても今後、黒沼ユリさんの演奏を聴く機会を持ちたいと思いますが、矢張り公式に引退公演をされた以上、公の演奏会は難しいでしょうか。

\*\*\*\*\*

### お知らせ

#### 特別展

#### 「古代メキシコ:マヤ、アステカ、テオティワカン」

メキシコで花開いた独自の古代文明のうち「マヤ」「アステカ」「テオティワカン」の至宝を主要博物館から厳選展示。発掘調査の最新成果に基づき普遍的な神と自然への祈り、多様な環境独自の世界観と造形美を展示。古代メキシコ文明の奥深さと魅力に触れる絶交の機会。

会期:2023年6月16日~9月3日

会場:東京国立博物館 平成館 特別展示室

観覧料:一般当日券2,200円(前売券2,000円)

後援:メキシコ大使館

詳細:<https://mexico2023.exhibit.jp/>

なお福岡展が九州国立博物館(10月3日~12月10日)、大阪展が国立国際美術館(2024年2月6日~5月6日)で開催。

あるいは、これまでの日墨交流の歴史の中でのご経験を語って頂く機会をアミーゴ会として作りたいと感じました。



★編集部注:黒沼ユリ子会員には2017年12月7日のメキシコ歴史・文化講演会でお話しいただき、会報「アミーゴ会だより No.34」(2018年4月号)に「私がメキシコから学んだこと」をご寄稿いただきました。

#### 黒沼ユリ子のトーク付き楽しいコンサート

#### Vol.23『弦楽器の愉しみ』

#### 《引退最終公演》

日時:2023年4月9日①14:00開演②17:00開演

会場:ラビドルホール(ラビドル御宿([lavidor.or.jp](http://lavidor.or.jp/)))

出演者:黒沼ユリ子・山森陽子(ヴァイオリン)

植村理一(ヴィオラ) 宮澤 等(チェロ)

### お知らせ

#### 第2回 オラ!タコスパーティー

#### “タコスで巡るメキシカンジャーニー”

メキシコ各地のご当地タコスの勢揃い。ご家族でご賞味あれ。さあ阪神へ!! 蔵野佳好子会員プロデュースの催事。

会期:4月19日(水)~4月24日(月)

会場:阪神梅田本店 1階 食祭テラス

詳細:<https://web.hh-online.jp/hanshin/contents/str/index.html>

あとがき:流石のコロナも第5類に格下げ。ホンマカイナと思いつつも個人責任とか…。テスラ社がEVのNL新工場建設を公表。ニアショアリング深化でメキシコ大変貌の予感。ANAに続けとAMが毎日運行再開。本会も事務局長交代で新行動原理で再始動開始。改めて会員の皆様のご支援を大いに期待。本誌投稿も心より鶴首。[20230415か]